

# ふるさとやす立志塾

市内9中学校から27名のメンバーが集い、平成30年度の「ふるさとやす立志塾」を実施しました。今年度で8年目となる今回は、郷土を知り、学校や地域での活動を通して、志をもったリーダーとしての実践力を身につける研修等を行いました。

8月6日～8日の第1回研修では、うら・らめ～るで宿泊研修を行い、内田市長をはじめ、鈴木教育長や西脇塾長から、「リーダー性」や「郷土愛」について学びました。

さらに高齢者住宅「銀木犀浦安」への訪問では、浦安の高齢社会について考えました。認知症VR体験を

することで、高齢者の立場に立って考えることの大切さを学びました。

また、8月22日に行った第2回研修では、アークス浦安パークにおいて、ジャパンラグビートップリーグのNTTコミュニケーションズシャイニングアークスの方と交流しながら、市民参加型のイベントを企画しました。交流などとおして、リーダーシップや郷土愛、実践力を高めています。塾生からは「立志塾で学んだことを生かし、より良い学校を築き上げていきたい」という決意表明がありました。

## 塾生の感想

自分のテーマとして設定した「浦安の都市開発」について考えるには、まず、浦安をもっと知って、現在の街の構成等を理解することが重要だと市長の講話から感じました。

講話や様々な体験を通して、「リーダーとは何か」について改めて考えさせられました。教育長講話のテーマでもあった「生徒会活動の活性化」に生かしていきたいと思いました。

千葉工業大学惑星探査研究センターでの衛星との通信を見学

「認知症の人は、困らせたい人ではなく、何かに困っている人である」ということがわかり、自由や生きがいを奪わず、相手の気持ちになって、適切な支援を考えることが大切だと学びました。

認知症VR体験